

次郎柿剪定学ぶ 収量確保めざす

三重・JA伊勢

【三重・伊勢】JA

伊勢玉城柿部会は、玉城町の園地2カ所で柿「次郎」の剪定（せんてい）講習会を開い



普及センターの職員から剪定方法の指導を受ける部会員ら

た。部会員ら合わせて約30人が参加。本年度の剪定の注意点や側枝の扱い方などの確認をした。

県中央農業改良普及センターの職員が、実演を交えて、手順や方法を説明した。同JAの担当者は「剪定は、安定した着果量の確保と、樹勢や樹形の維持のために行う重要な作業だ。産地として安定生産を目指し、しっかりと取り組んでいきたい」と話していた。

同部会では、部会員72人が、約23畝で柿「次郎」を栽培する。名古屋や県内の市場に出荷する。